

学生らが夏休みなどを利用して企業で職場体験する「インターンシップ」。県内では海外進出企業と連携するケースが増えており、本年度は新たに岡山商科大(岡山市津島京町)

と岡山理科大(同市理大町)が外国での実習を始めた。国際感覚を身に付け、世界で活躍できる学生を育てるのが狙いで、大学側の取り組みはさらに広がりそうだ。(長安亜矢子)

県内大学のインターンシップ

海外企業と連携広がる

岡山商科大は、プリの日本企業の発展ぶりを「この目で確かめたい」。インターンシップをするプロジェクトを組んだ。石井表記(福山 経済学部一年斉藤慎士さま)

新たに岡山商大と岡山理大導入 国際感覚磨く

市)の協力で、フィリピン(ハ)は「目標を見つけ、ピン・カビテ州にある 有意義な大学生活を送り、関連会社で印刷機の操作や検品作業、営業、

井尻昭夫学長は「学生プログラムを計画した。滞り期間は二週間、リポートを課し単位として認定。筆記や面接試験などで選考した三人が二十一日から現地実習を始めた。

井尻昭夫学長は「学生プログラムを計画した。滞り期間は二週間、リポートを課し単位として認定。筆記や面接試験などで選考した三人が二十一日から現地実習を始めた。

井尻昭夫学長は「学生プログラムを計画した。滞り期間は二週間、リポートを課し単位として認定。筆記や面接試験などで選考した三人が二十一日から現地実習を始めた。

井尻昭夫学長は「学生プログラムを計画した。滞り期間は二週間、リポートを課し単位として認定。筆記や面接試験などで選考した三人が二十一日から現地実習を始めた。



在し、アルミの製造や在庫管理などを体験する。県内では先駆的に取り組んだ吉備国際大(高梁市伊賀町)。二〇〇一年は六割に増えている。二一トの問題もあり、国は職業観を身につけ、主体的に進路を選択する能力を育てる「キャリア教育」に重点を置いている。岡山

岡山商科大(岡山市津島京町)は海外の実績はまだ少ないが、「インターンシップは、より質的な向上が問われる方向へ変わってきている」とみる。

ある大学担当者は「国際感覚や語学力向上とともに、海外進出している日本企業の活躍を肌で体験すること、職場企業への就職意欲も高まるのではなか」と話している。

井尻学長(右)に海外インターンシップへの意気込みを語る岡山商科大生(八月一日)

井尻学長(右)に海外インターンシップへの意気込みを語る岡山商科大生(八月一日)

井尻学長(右)に海外インターンシップへの意気込みを語る岡山商科大生(八月一日)